

ル 4  
4692  
5





吉澤文庫



播磨名所巡覽圖會卷之五目錄

龍門寺	龍門川	三社明神	瑞山城址
淨土の浦	小津	梶山城址	行崎驛
下ヶ浜	袋尾津河	南天燭大樹	赤松則勝墓
室津	中嶋寺	平兵衛昌墓	令別山城址
室明神	宮栗川	笹水清み	因融寺
室田河	山	大光寺	門崎
白松社	池乃浜	正殿 別雷堂	小泉月津寺
白松社	天王祠	若宮社 八幡宮 荒津	津名寺
白松社	見性寺	若宮社 八幡宮 荒津	津運寺
白松社	正法寺	若宮社 八幡宮 荒津	



門 4  
號 46.92  
卷 5

早稲田大学図書館  
36. 6. 21 購  
藏



大聖寺

觀音寺

寂靜寺

德宗寺

不二庵

法釋院

御茶屋

多若大信送跡

尾登浦

竹園尼

陀羅尼溪

柏浦

瀬戸 全修 鳴修

炮籠堂

瓦川水

向灘

唐荷崎

那波城跡

陰村

那波 日浦 日工修

得宗寺

坂城浦

德業寺

相眼寺

高通峯

大避明津

妙見山

尾修八藏宮

妙見

常樂寺

龜乃甲

修和都法堂

觀音寺

赤徳地蔵

日製

狛川

新溪村

赤徳地蔵

中村

遠林寺

赤徳鎮城

花岳寺

忠義塚 日輝法

大石屋敷法

西塩溪

大津

愛宕大権現

長樂寺

西山寺

尾子墓

若狭村

知家武部宮本

菅浦香塚

八保津社

高峯半段天王

津渡寺

文州川

有年驛

有年城跡

遍照院跡

八百羅漢

矢野屋

觀音寺

三本平都婆

小鷹山

小書石

無燈山

法雲寺

宝林寺

光明山法

感狀山法

鞍井津社

白旗山古塚

古口繩古塚

僧惠使古法

大聖寺城法

舟坂山

鎮後三郎墓

大津

愛宕大権現

若狭村

高峯半段天王

津渡寺

文州川

有年驛

有年城跡

遍照院跡

八百羅漢

矢野屋

觀音寺

三本平都婆

小鷹山

小書石

無燈山

法雲寺

宝林寺

光明山法

感狀山法

鞍井津社

白旗山古塚

古口繩古塚

僧惠使古法

大聖寺城法

舟坂山

鎮後三郎墓



播磨名所巡覽圖會卷之五

龍野鎭城

服坂庚乃

新田義貞始て當國一國

又揚子義貞亡びて

足利家より赤松則祐

後赤松政則又揚子延徳年中當城を構へ猶子政村又後乃

城を譲る足當城乃始て○於内ハ揖東揖西飾西三郡又隣る

莊廿一郷凡百五十一邑東ハ播磨西ハ那波野小大丸又小丸

香山聖岩と限り南ハ細于新在家東西南北又里余

竈敷千軒許寺院十二ヶ寺氏宮一社別當正覺院

古の驛道ハ小丸ありて播磨の水路山より書字坂なりあり

大市郷相野中村のふる所今ノ名村あり夜良の湯と讃ハ布粒又

小丸丸光山乃下りりる田舎と云き舟橋ある山陽道これ今ノ道あり

又赤松勢取坂と先塞ぎ新田義貞先陣江田大鼓書院後ハ

○市三九日六日ありて完栗依用赤徳新宮林田子本三月

○舟ハ龍野社よりして大坂九州皆海より伊保川又通ハ溪ハ

○去産 鱈

燧石 厚紙

煙草入 岩油

海産 山椒

栗 枹 砥石

龍野川

長城の糸

川上の完東郡又流と  
合すく新野川  
海に達ハ細波あり





○臺山といふ今の宮乃山なり  
三社明神 白山あり 鹿靈神といひ  
小津村より大明三奉安後  
城山城趾 平井郷中内村より赤松二即修徳寺義隆の居城之柳城山城乃山谷法隆寺より  
南小宮郷より遠境の教百里も眼下に遊り 蘇麻二揖保川の大河あり 細川山名乃 西勢  
三ノ余勢を以て嚴密美多礼に遊り 赤松元年九月十日城山の城一斤の堀あり 萬城より及ぶ  
赤松元年より應仁元年と七七年の赤松家の中絶は 同高麗山名余金の領あり

小柳清水 平井郷法興村あり 小津 小室郷小津村あり 長老の宅地より今尾上と書けり  
横瀬十水の其一あり 長老の宅地より今尾上と書けり

梶山城趾 河内赤松内村より谷沢甲斐守高田氏 行島驛 赤松家行島村平澤あり 驛より  
是と守る赤松年中赤松政村是と書けり 家又ついで有年へつて方り

赤原神祠 川の辺 代尻神祠 代尻 南天燭大樹 川の辺代尻乃赤松とい  
赤松系村 赤松系村

赤松則勝墓 川の辺中陣城趾より赤松系人 夜比良神社 赤松系村あり 老後より地(周)居りて  
赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村

磨谷山中島寺 石見赤松 平井保昌墓 赤松系村あり 老後より地(周)居りて  
赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村

令剛山城趾 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村

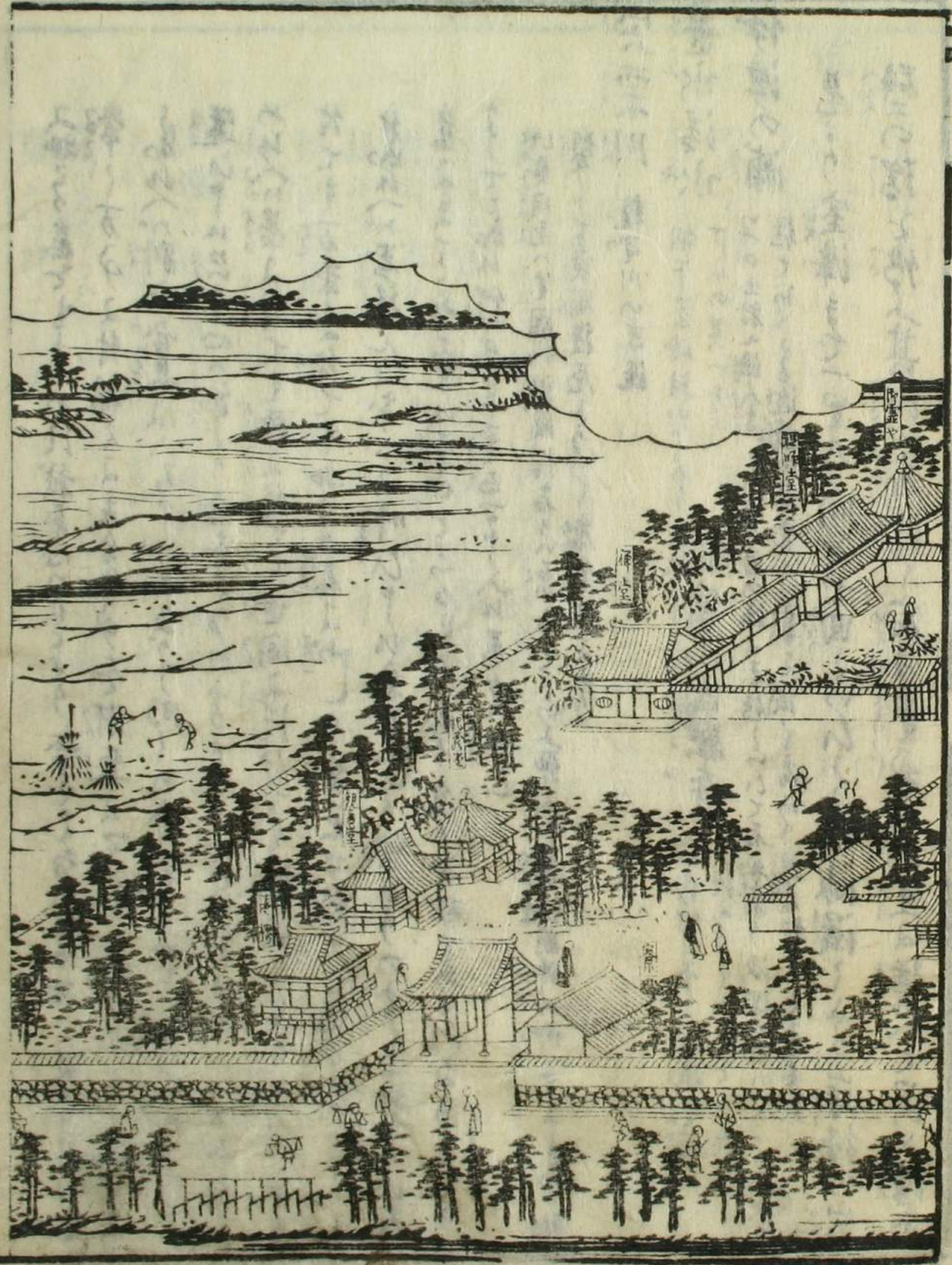
天徳山龍門寺 細下溪田村 開基 盤珪和尚伽藍大地也  
赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村 赤松系村

盤珪佛智禪師 攝州揖保郡溪田郷の禿りて元和八年三月の降

誕ん七八歳の比より万人又勝と村民菅家の赤童と秘以十歳と  
て父乃憂又丁ひ十二歳して大智明徳乃論を講以聞人皆感と  
ぬ日郷西方寺又入て不勅明王又祈祝して日國赤徳院禪師  
乃法流雲南洋和尚の弟子とありて出家しぬ後弟子凡に百人  
あり諸國又度せし寺院を祀とす其教五十余ヶ石元禄六年  
九月遷化以年七十二歳元文五年又十年又下り大法正眼國  
師と謚あり

○盤珪法流と印板あり世と先と美ひ又吾世より雨乞の致と書けり  
の意を以て白挽教と制し教へ凡に歸らしめ又頻更りて雨乞り  
とあり今且例としてうとらん  
攝州揖保郡溪田村不徹庵の開基真閑後尼のり禪師より印板の意  
便り印板は一筆中入ひ其りてとくも印板の意は印板の意は印板の意は  
け方何のり居はす心易い印板の意は印板の意は印板の意は印板の意は  
度なれはすま換るる子く悟り度法を以てはく印板の意は印板の意は  
よし印板の意は其心と印板の意は印板の意は印板の意は印板の意は





天徳山龍門寺

此山を于渡りし和尚今も  
 かく建主は舎再建は赤松  
 一族救済三郎光則をり  
 とつち墓あり 兩山堂の  
 境内のそくあり此山の  
 地をり元禄中  
 塔あり後幾  
 余人在り  
 佛智弘做没跡  
 と線一希代の  
 天徳と深つ  
 今





又抑る意ともしめ我本心なりとすり念をたもれしは相と能合息も  
常く万の付福んは合ぬるを肝要とす如く本心とて人明ら  
如く別合息は入るやいふやうにゆりや度重きゆり都てゆり  
迷ひやい本心の神より念をたもれしは相と能合息も  
ゆり人の若く付ても悪く付ても世間とはけても佛法は付ても人のゆ  
付ても万事は付ても抑る意も少しも貪念せいで起る止むと  
は如くは志福んは本心は叶ひしは念いんより実りのえんは抑りい  
念よまこと多き如く本心と志りしは相と能合息も  
うりて如く何れも抑る意も少しも貪念せいで起る止むと  
は如くは志福んは本心は叶ひしは念いんより実りのえんは抑りい  
念よまこと多き如く本心と志りしは相と能合息も

穴栗川 龍津川の末流

毎水清水

細干尾津村山下あり  
十水の其一なり

箱富山園融寺

箱富村あり  
箱富山あり

伊津の浦

伊津の浦の海は志福んといひて石あり波浪の時に乃大石  
乾てはりしは述津の者なり

是より室津まで一里の向と七回といひて南海邊に山手徑の岩  
壁の端とゆる其行に石海に石あり室津の山室は後耳七ツの入津の

て其間道を上下に

伊津は二里の間津の取ありしは未詳一挺二挺とてり  
延建あり其甚絶景あり尚画上よまら

城山

室山之西の山

此城は元弘の以赤松次郎則村入る園心藤原不と即園心の嫡  
子信濃守範資乃三男幸御押都女由教とい園心の次男藤原守女範  
の次男雅由女則教と兩人籠りしが建武より氏郷西園藤の附新田真  
是と退て橋州より下向し江田大能とて室山の城を築しは赤松討まけて赤

種に退く其後中絶しつるが園心六代の後赤松兵部少輔政則播磨  
三州安芸の附け城と修補して教子浦と其地守則宗とて守ら  
其より石見守村宗則其地守政宗三代相續は然る赤松政則死去の後  
孟塲の城を二代目乃政村と浦上より確執起り村宗守心を企てる  
龍神の城を赤松下野守村秀頼より幕下の人々小太丸の怨み内海動  
解中範資をゆり平井俊中守は若狭中守園山兵庫ら下五百金誘を  
若向て室山乃城と攻るけ勢大雲寺のら下より岬山山のみきとてこの面三町  
馬を折入る籠城は元弘の遺つけいといふと妻考より杉原中政宗  
乃嫡子孫之進宗景の婚姻にて酒真守のゆりは不意に打ち大は撥動  
されしは政宗古老の勇ゆりいといふは下知とては定と定と我いなり  
あはれかり今日嫁娶せし宗景の妻二八斗かりか小長刀とて教と教と  
難をせ候は自宮にたる多勢の長を候はる妻入りは政宗小令の叶いと



多岐川

流すまのまきあり網の  
菱千細とそくま  
とあ江なり

獅子岩

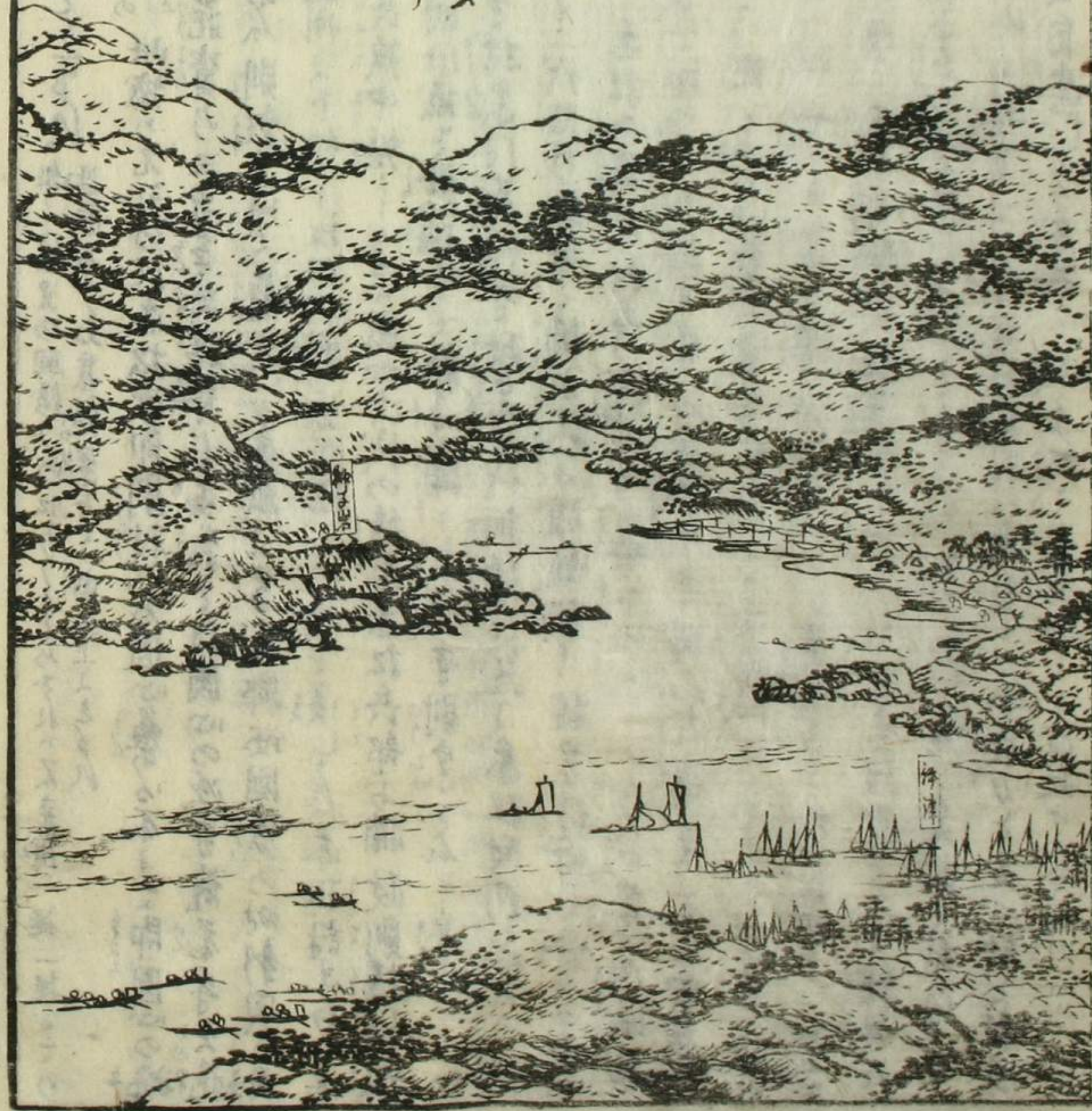
七曲の中はあり獅子  
岩路はゆる

炭焼谷

七曲の中はあり炭焼  
石の樹本炭と焼く

とらごう石

大石斜に横たわり  
流れて海へ入り  
入る石は



七曲

傾城嶽 石塔

七曲の中はあり  
室のたきけのこ  
海の中は石と塔

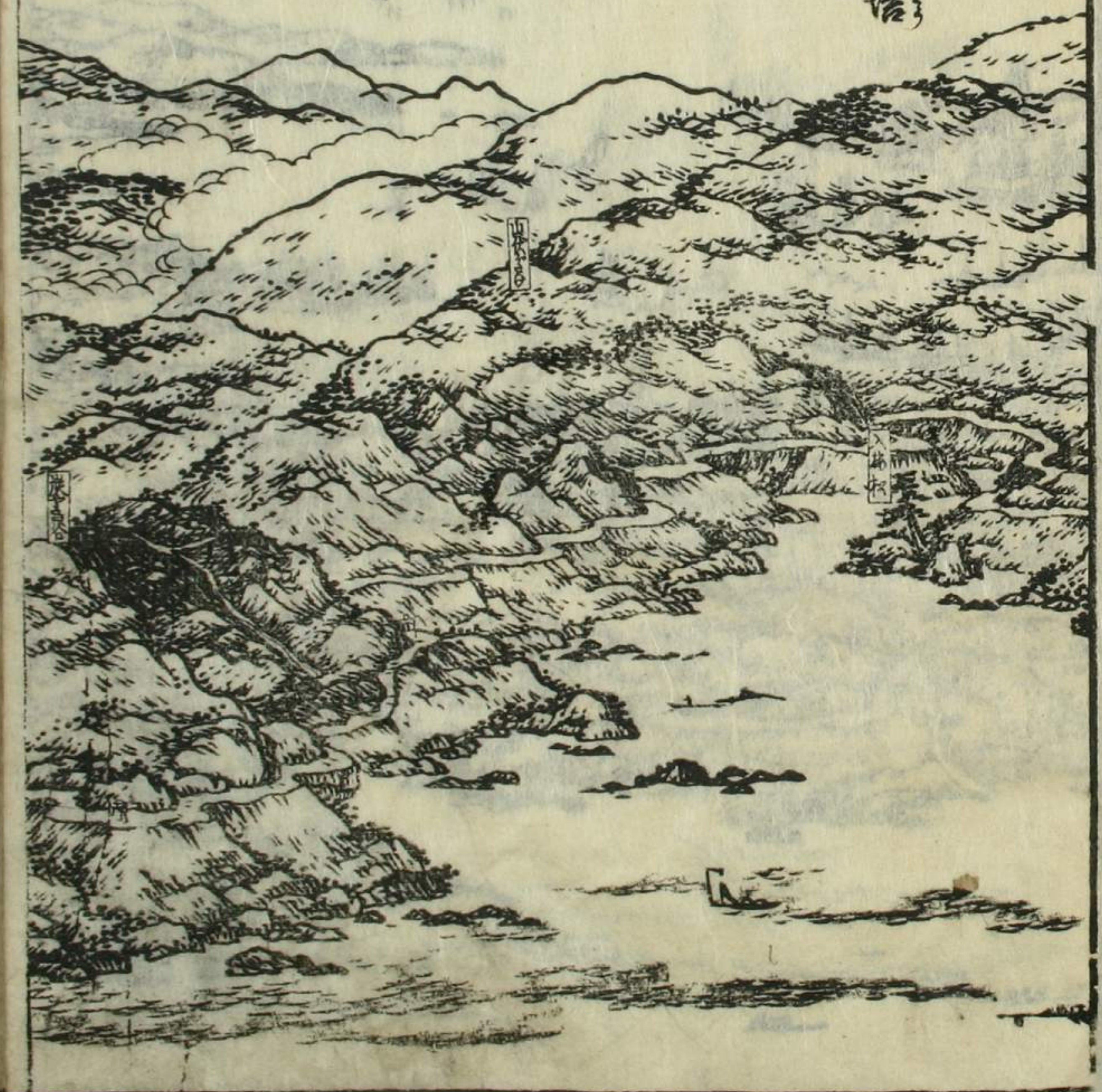
山伏嶽

山伏の尾流  
石は

鱧口岩

地獄谷

七曲の中はあり  
谷の底は





室津

室津山 津の山 津の山 津の山

門

津の山 津の山 津の山 津の山



下

津の山 津の山 津の山 津の山

池の

津の山 津の山 津の山 津の山









室明神は 室の峰明神山あり 正殿の加茂別雷堂を神宮東に行ひ 法を田

法西の茨布祿法若宮之古田乃 東に板尾法正殿の後に河合社下橋

御祖神之其西に権殿之二層塔は言宝佛と奉るなり 八幡宮 塔の西

とて人建まてり其堂よりして 八幡宮 塔の西 板尾河 日足門 岩本橋 板尾河

祠 若くは 白紙社 側あり 禊 中津津家之加茂忠康云云に云附して傳りし

とて 神宮寺 送路 今廢して社人 國氏の居宅と云

神傳曰 抑當社乃 神の日向國高文德峯二上嶽より 治山三系山へ

遷らせ給ふ其附け地は領史當通し 治山一厥后加茂一光徳乃 附

神藏三十六人奉侍と云ひ給ふなり 治山一厥后加茂一光徳乃 附

治山一厥后加茂一光徳乃 附 治山一厥后加茂一光徳乃 附

治山一厥后加茂一光徳乃 附 治山一厥后加茂一光徳乃 附

治山一厥后加茂一光徳乃 附 治山一厥后加茂一光徳乃 附

日遠道の清人編麻乃て其日の振ひ云らん方は町中ふは家宅

を飾り一門加國乃 奉宮泊社の縁人雲々集ひかゝり 釋り一津

今ぬはは 祭日若後九十日 津の家々の業を停て 祭式の調度

と云羅と云 皇都の葵津蔭みつきく 收羅する祭式あり

天王祠 明神より 奉の林間あり 奉神年改天王六月七日は 奉治の祇園會を奉て

佛通山見性寺 室津あり 櫻原あり 櫻原あり 櫻原あり 櫻原あり

佛心の方より 奉神あり 奉神あり 奉神あり 奉神あり

正洞院 中興あり 後唐あり 和南あり 和南あり 和南あり

法涼山津運寺 友若墓 治山あり 治山あり 治山あり 治山あり

法因堂上人中興 因光六所所御敷 治山あり 治山あり 治山あり

観音寺 寂靜寺 徳宗寺 不二庵 法釋院 治山あり 治山あり

御茶屋 治山あり 治山あり 治山あり 治山あり 治山あり





画の竹  
 虎の  
 黄楊  
 八橋  
 後  
 授  
 奉  
 納  
 と  
 と



室明作  
 高江幡来の什宝  
 源氏朝之御列  
 壽附狀  
 社として極  
 の御内様志林  
 田室御厨上  
 三ツの底大匠  
 奉九月十八日の  
 奉附状之其外  
 歴代お軍家の御教書  
 判物等教通あり  
 平重彬御琵琶  
 表の方要本吉長紅  
 花梨天板薄巻  
 面画の雲月裏の







創建之西海村来り諸侯朝鮮人々と郷食意の不一なり

鳥居大踏送跡

鳥居大踏送跡 高津明神の祠宮加茂縣を居る鳥居大踏の居る高津大踏を交接  
位下澄平の代は遠くして重聖殿と号し明神勅法の社檀越に今も  
て名をうけ送り高津の  
二年徳津の祠あり

浪石清水

浪石清水 高津原振源小川其基は地は浪石にて高津  
をあり年久しく荒廢して今津を名するの如く

遊女

遊女 高津原神前あり俗傳はつら傾城の地はまりありと云ふ  
西谷他馬を宿存三形其外無きと云ふあり

其人あり勢多又教はし彼書はして和歌を詠し吾舞白拍子の控  
戯を業とて本末不の長われの室の君とていしとなり後世に  
て傾城と云ふ 傾城は高津原外傾城といふなり中興  
其後宮城に友君大柄扱

なと名高き控女ありしと室控廓尾神町の記あるなり

武云高君といふなりかの高君の長大の長とて云ふと云ふ譯あり今も  
高君の教をうけつるに高君の家をいひ高君といふ高君といふ高君といふ  
の御り又酒宴の饗應をいひつる高君といふ高君といふ高君といふ高君  
の控女といふ高君といふ高君といふ高君といふ高君といふ高君といふ高君  
高君といふ高君といふ高君といふ高君といふ高君といふ高君といふ高君

○月控女善賢の化身といふ話

辨

性室上人の日以法華讀誦の劫よりまのりつる六根淨乃切徳と

得たりといふも生身の善賢菩薩を釋しきんと七日祈遠し

七日の曉天童来りて室乃控女が長者を押しめしこと善の善

賢なりしと云ふしてうせぬ教のまゝ室の長者が如くして有りた

まゝは長者出合敬えて上人は酒をとりて周防のそたら

浪の月やまゝとていふなりと云ふも是ぞ生身の善賢なりと云ふ

目をふさぐ心をまげし人かん善和の生身の善賢白拍

子に似ひて法性むろの大海は恒明の月乃光なりと云ふこと

うたひせ給へり又目をとりきく見よは控女の長者之佩金を

ら浪の月とて上人たつと云ふは「きり限は」相つと云ふこと

一町斗を給ひて後此長者率身まうりたり控女にして奉と云ふこと

と云ふ是とて生身の善賢はと云ふは「し」と







ていねとりのとげ... 五藤... 赤人

燈籠堂

瀨口よりあり... 其の上より...

陸村

西國歌る赤穂城... 下への道あり

那波 那波浦 那波大嶋

那波の海邊の中... 今入船也...

那波 那波城

那波の城あり... 即高徳の宮...

那波 那波城

那波の城あり... 即高徳の宮...

那波 那波城

那波の城あり... 即高徳の宮...

那波 那波城

那波の城あり... 即高徳の宮...

那波 那波城

那波の城あり... 即高徳の宮...

那波 那波城

那波の城あり... 即高徳の宮...

那波 那波城

那波の城あり... 即高徳の宮...

生島 一名いさご島... 五景系花...

見ゆる深より... 是がみ小浦人...

アノ又小島... 朝文又定...

綱島 一島あり... 塩は又...

小倉町 石... 其の上より...

大避明津... 赤山...

赤山...

赤山...

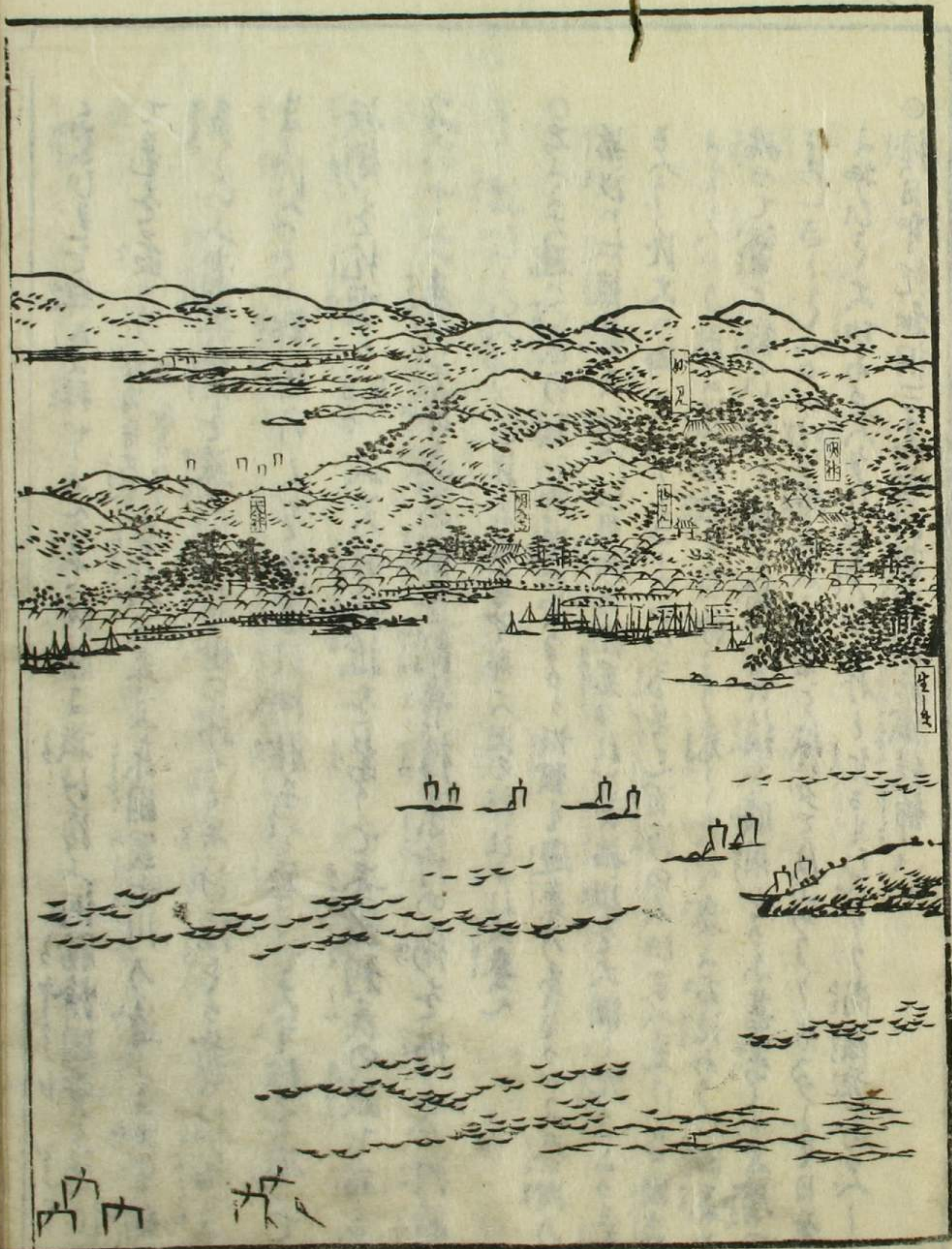
赤山...

赤山...

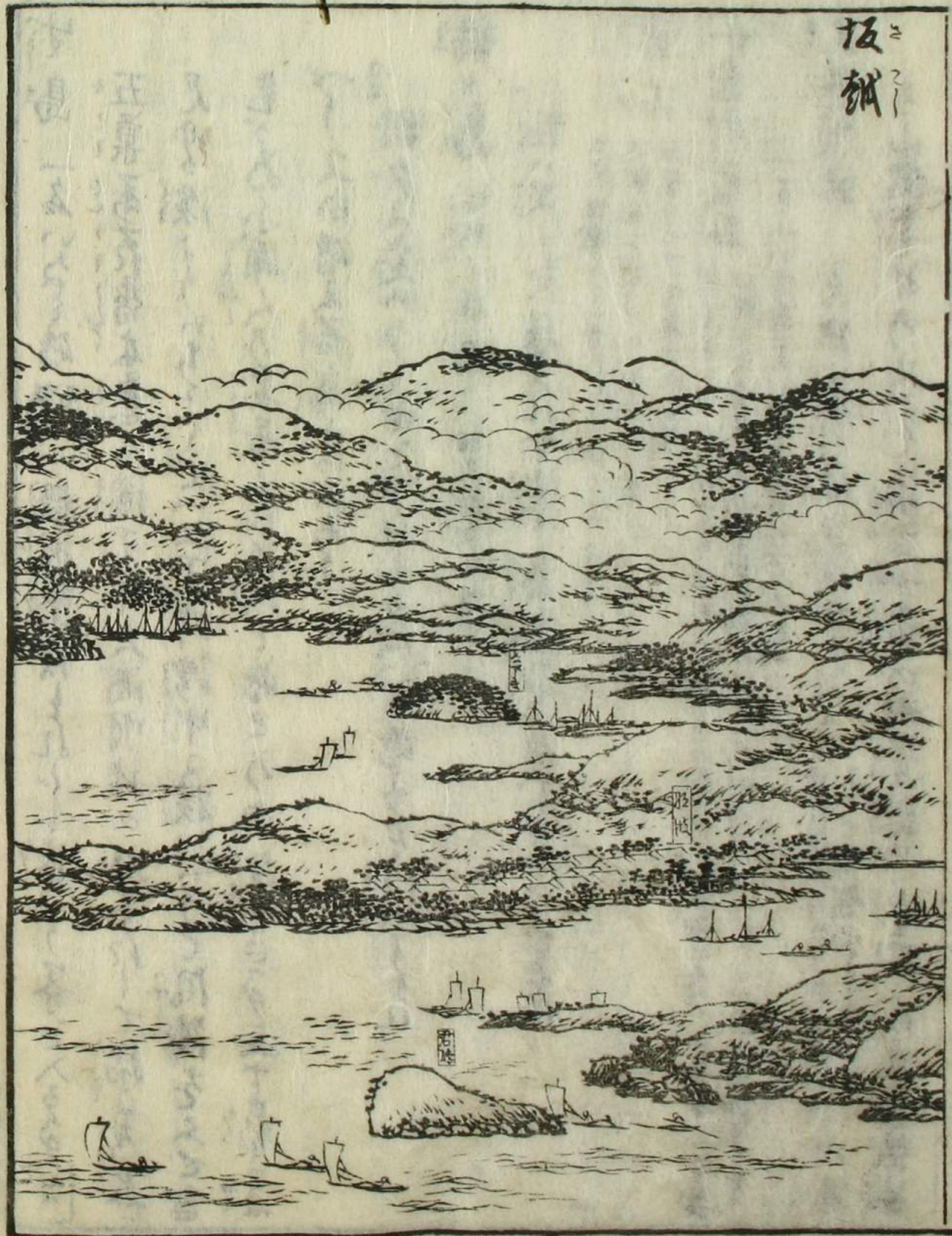
赤山...

赤山...





舟内 舟



坂  
城

五十八



と繁む是と群臣は群せしめんとて河勝は授け給ふ河勝降國寺と造立  
て是を並たり降國寺大秦皇極三年且東國富士川乃造りて大生郡  
多とよ者異衆を養ひて常世の世と号け信どる者財宝心よ  
まうはるど郷里の人を漸怒以河勝是と惡みて大生郡と捕へて  
妖術を呪呪日本又天祚地祇を並りて安國利民の政と布き  
又二十六番乃桑樂の面を制音律糸竹の術を傳ふる河勝  
より始むと云り○津名帳葛野郡大酒の神社に大秦と

○あふ大國入る藤の難と押避の義ありて坂城も進來乃義ありて又秦地乃  
始は仁德帝は使し百海の酒若れ其地祇を大酒と記しとるも知  
るうはた大の御は日トキ上古のる号之百海の人けあふまじし國史  
よもえんう既又傍惠後百海より桑と夫押與又古法あり○酒若れ  
始めて蟹と鮒の術と織て鞆其術を服用とるふ其桑と又膚の  
よはしきとくハタの姓と傳ふるは秦とばハタとはよりくはつと日本  
よ押ひく大功ある人なりと記しとるもいづかり尚後教あり

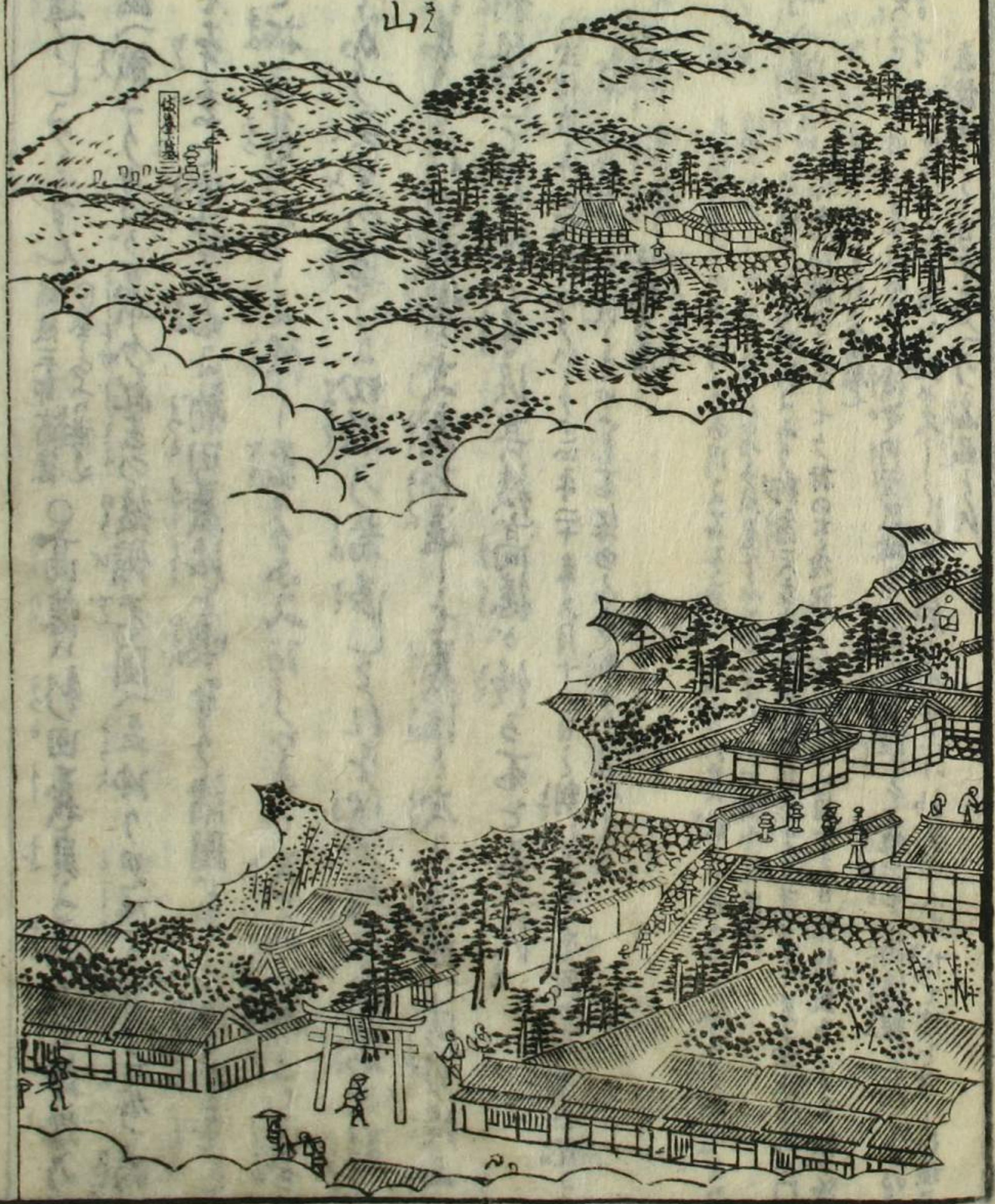
○續日本紀和訓三年七月攝摩國始織後師云

○三代實錄 天和天皇貞觀六年八月攝摩國赤德郡の大外心七位下  
秦造内麻呂は叙して從後と云ふ喬傳は出郡上代秦川勝乃  
乘地なり和入麻呂難と避て其妻其妻一附く夫押のふ中又麻呂  
三本率都波安の故あり又郡中不くと大避明神とて祀るも皆けあ  
と云り後世記孫とく國史よもえんがさたうはたとよもけ流さ  
りぬと一宰相記は秦内麻呂三神山親善寺と建まると云り内麻呂  
河勝の子孫なりと云り其の尚其子孫或は家属もまうるべし本津村に河  
勝僕後乃子孫と云るあり

備後三郎高德墓 山あり 延元元年足利氏九州より攻登りし時  
脇を義女攝摩へ引返し又児孫後守範長子息三郎高德三  
石の南乃山河を掘くことこの浦へ出服を殿と追付んとせしむる徳  
それの軍と庇と並り相知る傳ふれけ長き後迄と云るも  
赤松が兵路と透てそれ討やぶり那波より阿弥院が宿と云十八  
度戦ひて後二騎討ふれ過堂入く範長自害したり赤松  
が勢の大勢を孫太郎門次即重氏と云る者蘇れして遠背と故郷へ

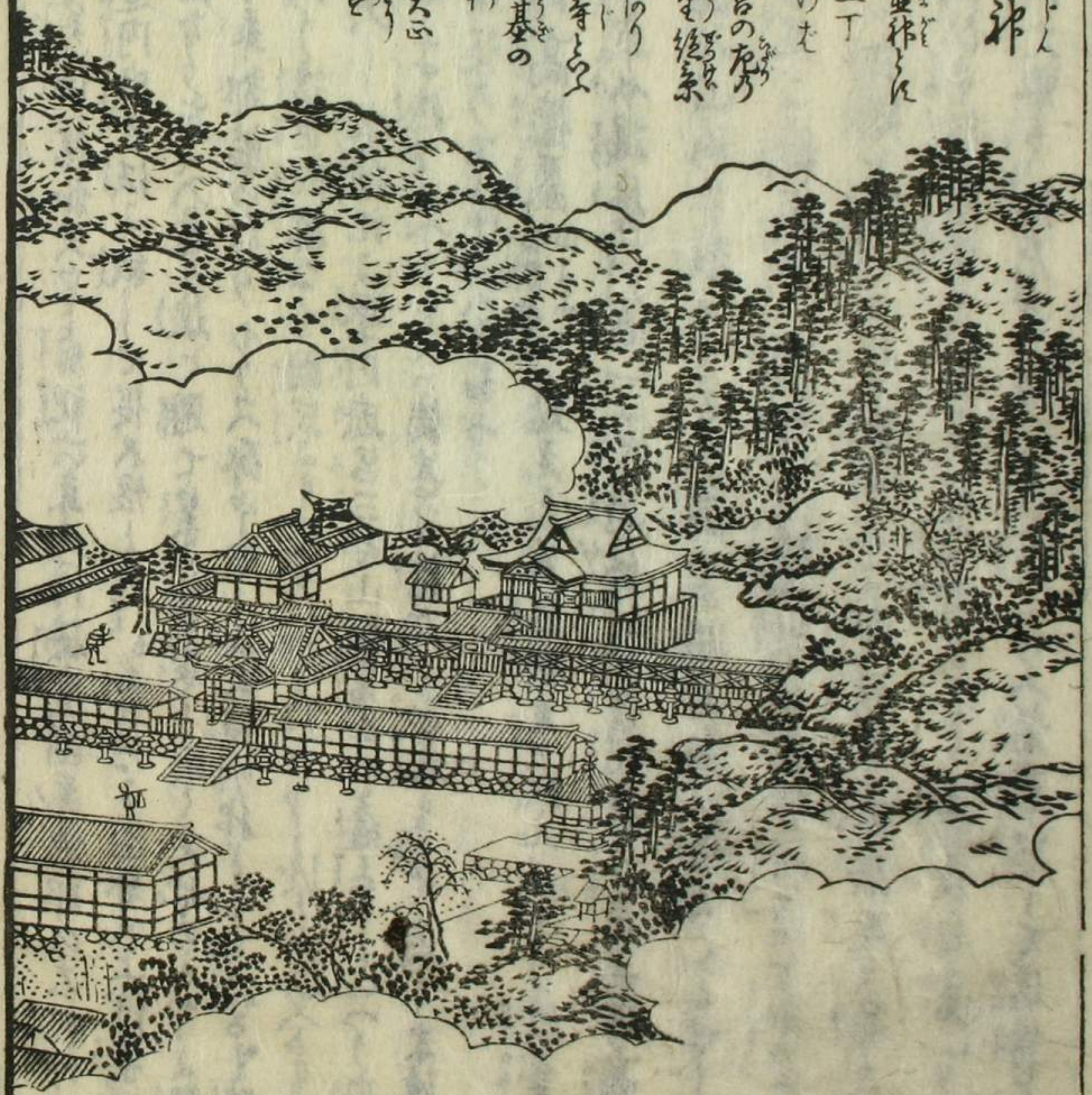


妙見山  
觀音寺



大藏明神

坂城乃產靈伴  
細陽より二丁  
西よりゆけた  
境内方八丁官の花乃  
方の丘ハ眺を絶系  
傍より別當あり  
室殊山妙見寺と云  
美云系乃基の  
爾基塔中  
十六坊天心  
燈台と



男二千一







赤穂塩

月製

塩漬乃地面度二町より七八尺ある是と一町を  
 二畝乃小塩ををりて完一ツマあり一町を以てして百完之を完の  
 を入り不と藤く大きと半同に方許下蓬を敷て是は潮を汲き入るは  
 その後う沙と積して壺壺は濁る。潮と云は是若し藤漬く藤漬  
 うき集むと致しよとて藤をかきりゆてそれ入る潮と焼くあり  
 中世といこれとややく砂の二へ潮とまきく日は于たりまじり又  
 法甚候之乃塩漬のに方集と穿てまへ海より潮を引入て是は  
 又其度き同は蒸餾し地面の中溝と掘りてに方の潮を通し引き  
 するをりつ。潮を入りて一日又晒してかきりゆて壺壺の上へ  
 砂と入り其二へ潮を汲て汲きかけての沙の塩とゆい藤漬の  
 かく番より砂と又晩方よりて支物地面敷き耙を以てかきりし  
 以て押付け一夜を待たし日ごとく壺壺は砂と吸上げたる  
 よく日よさらせば壺壺はよよとよよとをゆてゆてゆてゆてゆて  
 ぐどし毎日かくのよし。壺壺の二完乃潮毎日一斗又井して百完十  
 石之。壺壺は蒸る石二斗より一壺夜の間は百完乃潮と十又六  
 者壺せり但し其七月のる潮多くして二日一夜は蒸る。塩水一  
 と者てみ合と得る之。壺壺は得る石六斗壺夜は十石許り。壺壺  
 石と石灰とて壺壺はゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

かり壺壺其度とよよと蒸るゆけは引く明り先け壺壺と制るは壺  
 の大さの板とへついのよよと蒸き其よよと河石二十許り壺壺と  
 揚燥したる壺壺と壺壺の原とを和して壺壺は又其壺の壺へけ  
 為ると六つかけ壺壺は其終りよよと壺壺を壺壺とてこより壺壺  
 乾しよき壺壺候いて中の相と換え又下より壺壺は乾し壺壺と  
 減ちよよと壺壺は壺壺は廿日許りて壺壺とて壺壺は壺壺は  
 壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は  
 うより西渡と制り右渡とて上品なり味壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は  
 を納るは壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は

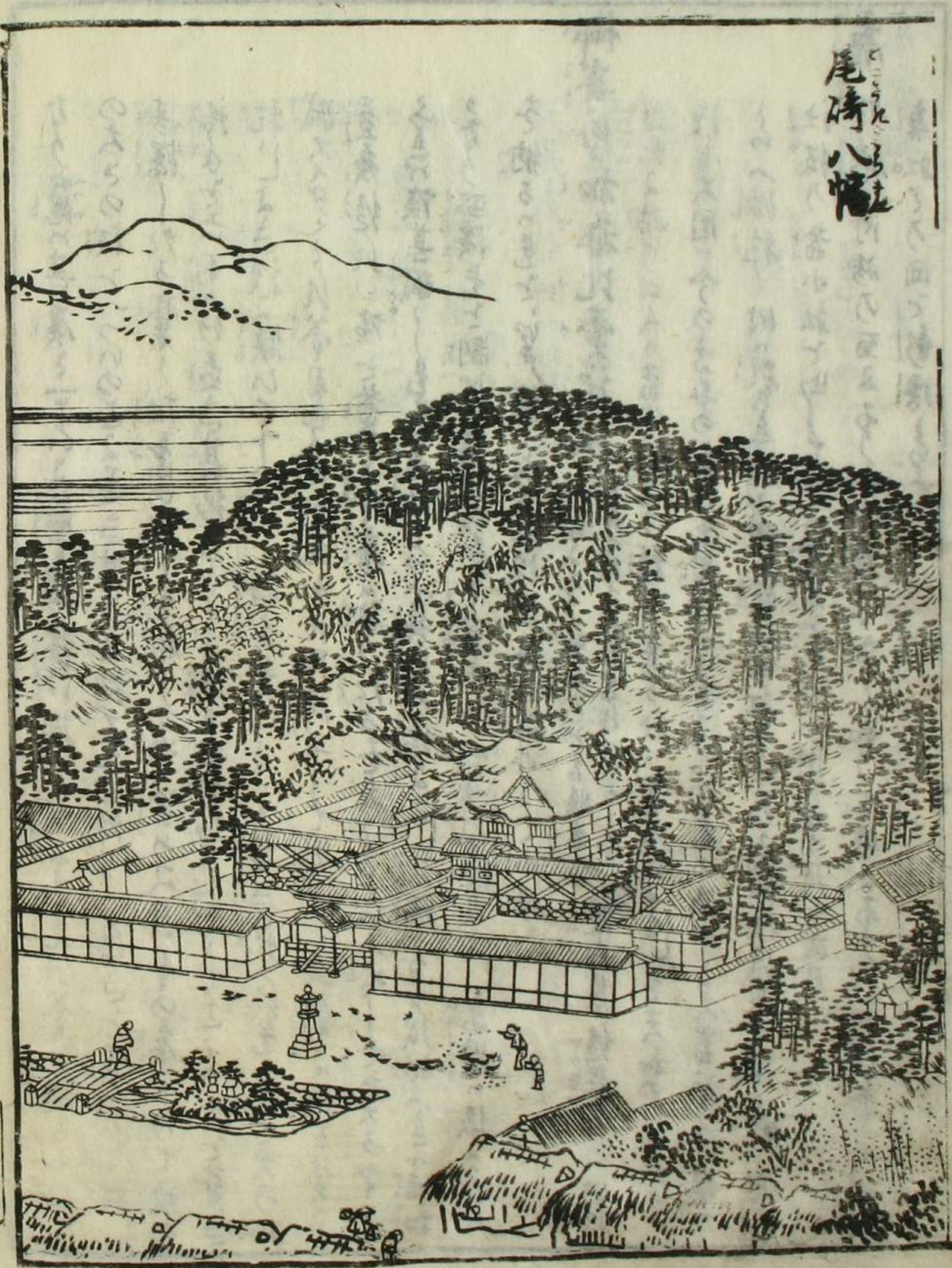
御寄伊和都比賣神社

伊和都比賣神社 伊和都比賣神社 伊和都比賣神社  
 道代は始り土人の皆作るより後り来り社に若大園ありしを天和の  
 先と大園の今の名女の末の末の末の末の末の末の末の末の末の末  
 との末の末の末の末の末の末の末の末の末の末の末の末の末の末  
 社候乃若小社と出して此は壺壺とをり例祭九月十六日  
 壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は

壺壺

壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は壺壺は





尾崎八幡

五ノ千四



尾崎川 中村は流して城下を迂る

中村 城下の南と尾川より入川に二丁目其善法あり三丁目 中村 城下の入口の川より

赤穂 赤穂の南より多門てか、と城をさうり西に流るらんまの川なり 赤穂 赤穂の南より多門てか、と城をさうり西に流るらんまの川なり

を附属以其附よりめて此城を築く慶長八年池田輝政一統の後姫路より郡代あり日河内守日政細川輝貞其後清井内匠

十六邑城下の所甚多ありては氏形と並べく功用足りしなり

赤穂街の造りより海通とて昔の因世坂と稱して百目地と姫路とい

道と通るが不能然とて城を築きしとて小宮坂の同道なり

墓雲山 華岳寺 後村よりあり同墓 法也候建立代りの墳墓あり善徳所と云ふ 女心と華岳院と稱し又後村より善徳と号して清井内匠長矩と云ふ

左右大石内苑を親子其外に十八人の義士の石塔並みし入ては府泉岳寺と

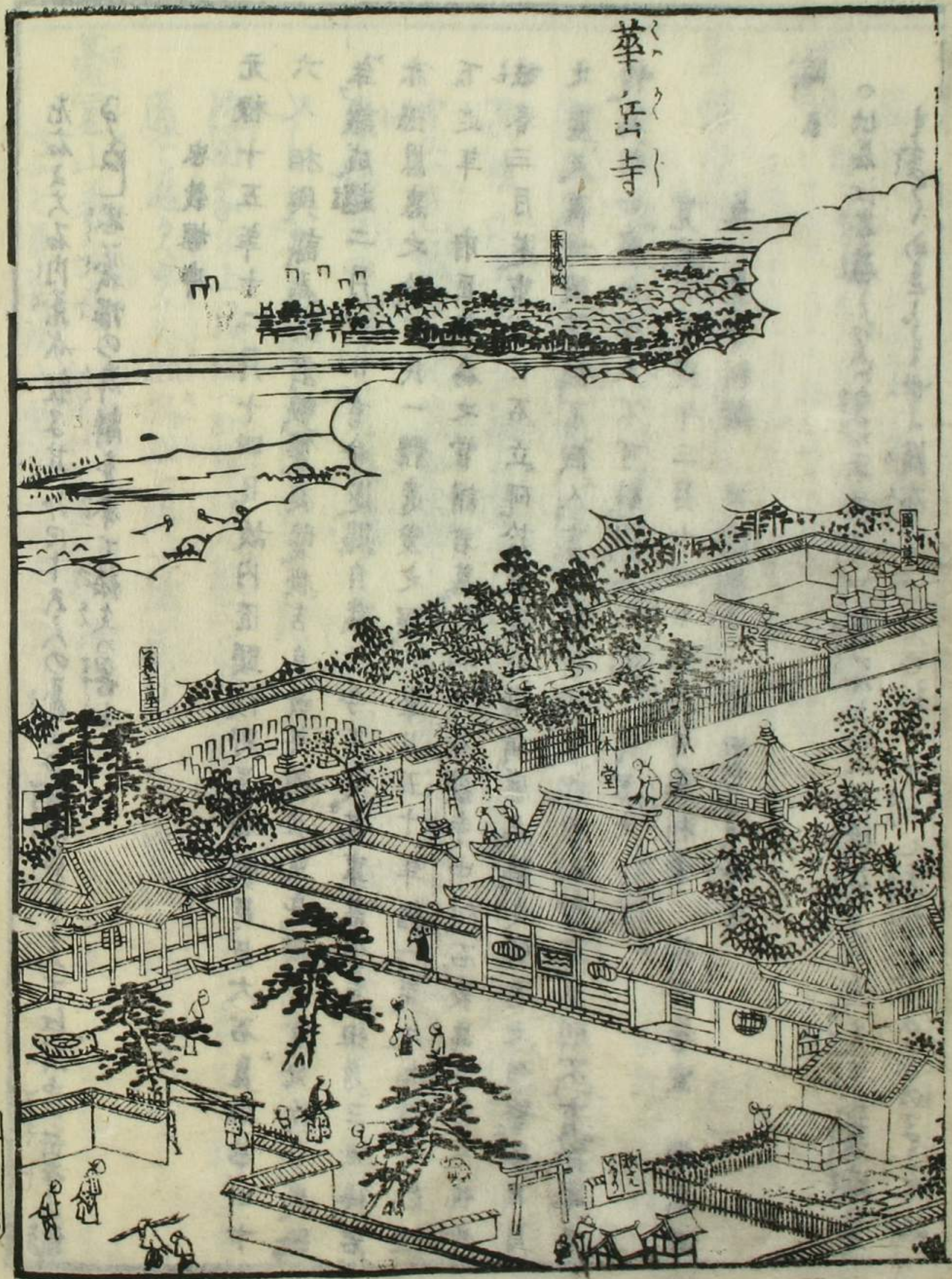
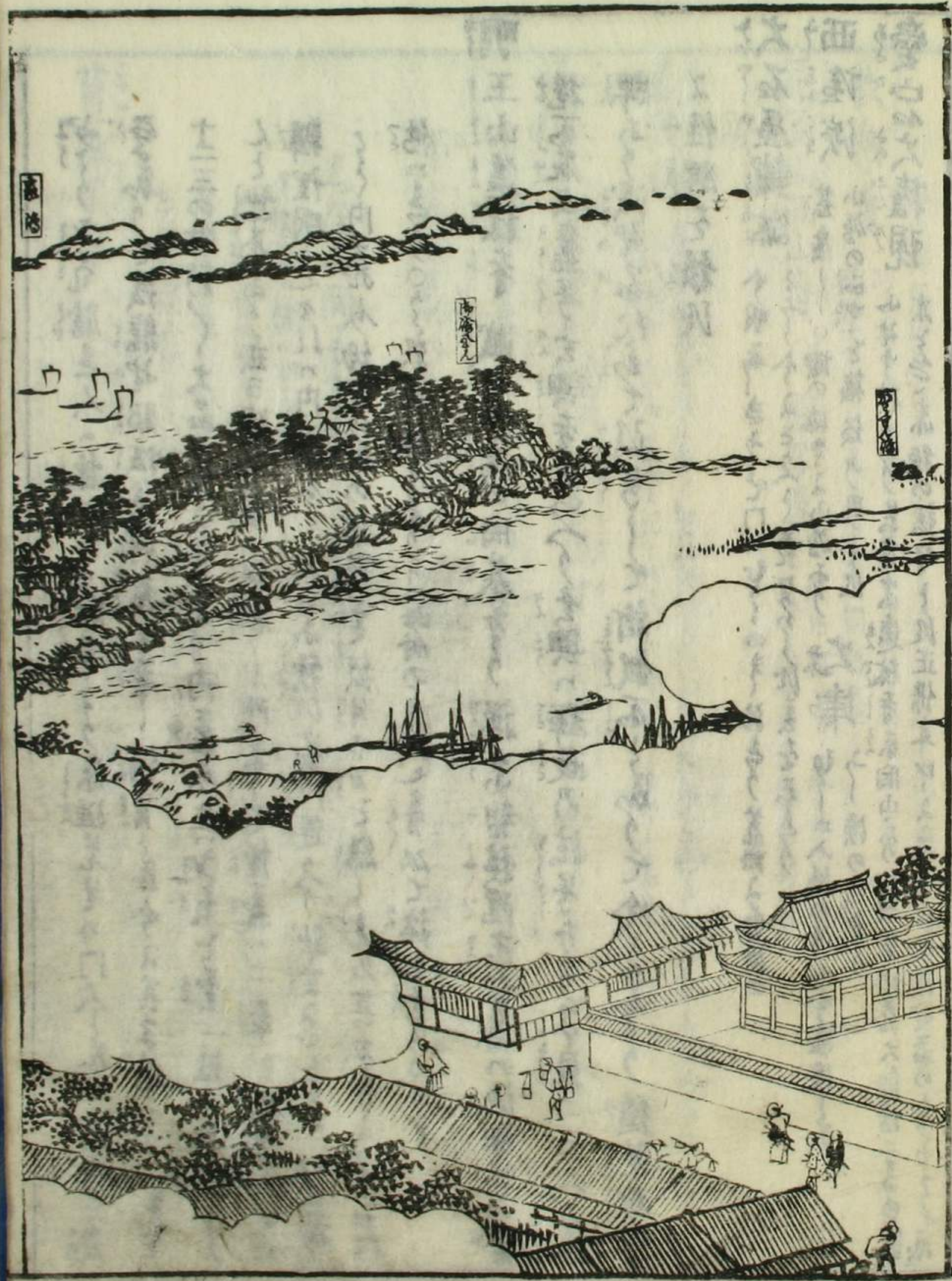
忠義塚序

元禄十五年十二月十四日故内匠頭浅野長矩朝臣臣大石良雄等四十  
六人相與謀為其君報讐夜襲殺吉良義英朝臣東身歸官官分拘各處  
年議成越二月四日有命遂賜自裁云今不具其事蓋候自祖考三世得君  
赤穂恩惠之洽巨民一體遺愛之深其事且五十年語一至此猶涕然泣  
下近年 府臣某為之管諸君墓於城北花嶽寺中刻石表焉民莫不悅合  
茲春三月遂重伐巨石立碑於墓道之東屬廉為辭夫諸君之烈譬如日月  
之麗天萬世罔隊不假人言與彫刻然非此無以慰思焉則不有斯舉又  
特為何如廉也郡人不可辭謹為之銘 銘畧之  
寛延三年庚午三月十四日郡人 奥藤利栄 松本善宣 柴原敏  
長 奥藤利徴 田淵春元 柳田吉甫等建

同云

○は及江忠廉より平埔号と號し物より文徳傳りたる一先せん著述を















か女見安尼の像あり又別法和尚の像 寺に論旨金有御教書村土家の古書秘傳甲冑多あり 二法は別法 大のまゝ今傳 傳曰園心別法和尚又同て曰法は二法はし然るは別法 このころ物あり

とはゆや和尚若て曰松は今のまじは然るは赤松とはゆや 降像をうりたりは善ふるよ及して寺を押さる

交野光明山跡 赤松の跡あり

感狀山跡 赤松の跡あり

鞍馬池社 赤松の跡あり

白旗山古松 赤松の跡あり

松則村の次郎之孫は具年親王乃後方り世々播磨の高祖又

て佐用莊赤松之居 赤松の跡あり 先世久範在常門尉始めて赤松と

以て氏と 赤松の跡あり 又久範 赤松の跡あり

て園心と号 赤松の跡あり

○園心性賢大志ありて人乃ちれあをりて欲せぬ元弘の乱は又塔宮護良親王より朝敵退治の令旨と傳りたるに園心大に教ひ奉國若繩山は赤松とて兵を率ていま付若子餘人坂坂山の里ニテ石に因と居山陽山法の両道と塞ぎたり西國の石止つて園心の勢上居とるをなせりなり中園の兵を坂坂山に拒めて二十余人捕へたりいそよ門と道園又馳着りて殺る人々摩耶山と陣と構へて山京の大軍と終り系帥又入く六波羅將と差傾け勇威と天下を旌たり帝還幸はして御衣と賜ひ其功と褒へ後播磨の守護職と賜ひと奉るも帝を信して又播磨の守護職と慕ひとてふく眼と進元元年心後して細川定遠と兵と率ひる氏は後い官軍と山崎に敗るる氏中園へ走るの後義貞播磨の湍瀧を圍と攻る園心を城法ありしけ時園心中園のる氏ははく軍と發しいそよ門と義貞播州の圍と解く園心出るるを以て室河に於てる氏に會ひ是より義貞とたは湊川に戦ひては義貞正成と敗る正平又奉り奉り法雲寺と稱ひ 赤松の跡あり 子に人々 赤松の跡あり 則法 赤松の跡あり 氏也

則村の志は功名富貴のるありて忠義の士よりは子孫皆これに教ひて奉りて不善の如く良の如く押しむる云







後遂又正成力よりて遷幸ありたり。城王勾踐呉に擄まると  
ありしと危難を謀略を以て城を還らしめ終つて呉と成し。收ると正成  
の忠義を以て書する。○延元二年新田義貞兵と舟坂に進めて  
合戦ありし事若に右平記より見たり。  
夫本  
凡そ中より白波とよそ人みよる坂とく見たり。その中よりき。後入るなり。

播磨名所巡覽圖會卷之五下尾



秦石田之彙輯西播名勝也  
源亭西遊其山水寺祠了  
園之兩以雪生亭六骨矣既  
還渾寫備次編為一帙為園  
凡一百頁遂併授之剞劂  
氏云史之有人進士意之所適



山水其甚焉而山水之所以  
愛在位置向背濃淡瀟灑之  
中矣位置之法淡淡死可狀非  
年可狀之無以可狀無其意  
焉而畫之所以其狀者在の  
墨氣疑之間矣今西持山水

之尤其有狀之于隨性之畫  
其不其固也而所謂の墨氣  
疑疑之者之淡之汨沒于刷  
刷之手矣其復有畫乎哉其  
山之守哉言人通于名觀乎  
物者乘除于之間可也



享和三子癸亥春三月  
浪華藍江中直跋



明治三十七年九月一日揚州名所巡覽圖略全五册  
按本郷群康軒求之

吉川指谷町居

明治三十八年三月於東京 吉澤喜純



求之 島崎文庫

94201  
ト

發行

書林

江戸日本橋南首丁目	須原屋茂兵衛
同 淺草茅町二丁目	同 伊八
同 日本橋通二丁目	山城屋佐兵衛
同 芝神明前	岡川屋嘉七
同 横山町三丁目	和泉屋金右衛門
同 下谷池之端仲町	岡村庄助
同 芝神明前	和泉屋吉兵衛
同 本石町十軒店	英屋大助
京都三條通御幸町角	吉野屋仁兵衛
尾州名古屋本町通	永樂屋東四郎
同 同所	菱屋藤兵衛
大坂心齋橋通五本町	河内屋喜兵衛







